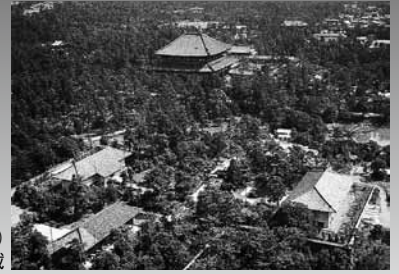


# 正倉院の博物館学

さ お と め けんじ  
五月女 賢司 民博 機関研究員



創建時は東大寺の倉だった正倉院(左下)  
『正倉院』(財団法人菊葉文化協会)より転載

## 意外な事実

博物館という施設やことばがで  
きるずっとむかし、奈良時代から  
博物館的な施設は存在していた。  
西暦七五〇年代に創建された奈良  
の正倉院である。

博物館学の世界では正倉院は、  
基本的に博物館機能の一部(保存  
機能)をもつ施設であり、宝物の公  
開・活用はなかったとされる。本  
当にそうだったのか気になり調べ  
てみた。その結果、意外な事実がわ  
かってきた。

正倉院宝物は、薬物以外は  
盧舎那仏とともに永世保存される  
というのが創建当時の願いであつ  
た。しかし、一般公開されることこ  
そなかつたが、その実用や鑑賞愛  
玩を目的として宝物の多くが、頻  
繁に活用されていた事実はあまり  
知られていない。

## 時代とともに

正倉院が創建された当時は、天  
然痘をはじめとする疫病や天災が  
続き、社会不安が高まっていた。そ  
うしたなか、光明皇后ゆかりの  
施薬院や内裏(天皇の御所)などで  
病に苦しむ人びとのために活用さ



正倉院には盧舎那仏の開眼会に関連する品が多数  
収められた

れたのが正倉院の薬物であった。こ  
れは、もともと光明皇后が病人の  
ための活用を願って献納したもの  
である。また、花氈という絨毯のよ  
うな敷物が聖武天皇の法要のため  
に大量に貸し出されることもあつ  
た。七六四年の恵美押勝(藤原仲麻  
呂)の乱では武器武具のほとんどが  
出蔵され、乱が治まった後も戻ら  
なかつた。平安時代初期(八二〇年  
代)までは、楽器や屏風などもしば  
しば内裏に運ばれ利用された。  
しかしそれ以降、ときの権力者  
による訪問や香木の切り取り、江  
戸時代の一〇〇年以上にわたる屏  
風出蔵などの例はみられるが時代  
の嗜好や人びとの関心が宝物から  
離れ、活用事例は減少する。

## 宝物と資料

一般公開は一八四七年の東大寺  
大勧進所による開帳が最初である。  
文書や屏風などが二月堂で公開さ  
れた。明治に入ると、奈良博覧会が  
東大寺を会場として開催され、宝  
物も大仏殿に展示された。このこ  
とが奈良博物館設置の機運を高め  
ることもなった。



奈良博覧会で正倉院宝物が展示された東大寺大仏殿

宝物活用の歴史は現在の管理体  
制からはかけ離れたものも多く、  
これを現在の博物館資料の活用と  
同列で語ることはできない。しか  
し、その活用は意外にも頻繁にお  
こなわれており、正倉院には保存  
機能だけではないさまざまな側面  
があったことがわかるのである。